



雪が舞う寒い日もありましたが、日中の気温も上がり、ようやく春を実感できるようになりました。春の天気は周期的に変わるので、今後の天気はどうなるのでしょうか。今回は山陰海岸の気候についてです。

山陰海岸ジオパークの気候の特徴

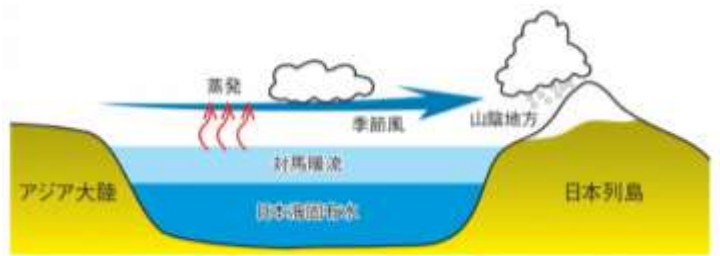
図1のグラフは、豊岡市（兵庫県）、神戸市（兵庫県）、潮岬（和歌山県）の3カ所の降水量、日照時間、気温（最高・最低・平均）のグラフです。3つの地域は、それぞれ日本海側の気候（豊岡市）、瀬戸内の気候（神戸市）、太平洋側の気候（潮岬）の地域に属しています。それぞれを比較してみると、気温のグラフ（折れ線グラフ）は、いずれの地域も冬に気温が低く、夏に高い山なりの形をしたグラフになっていますが、降水量の棒グラフ（緑色）は、それぞれの地域で特徴があることがわかります。



【図1 豊岡市(左)、神戸市(中)、潮岬(右)の降水量、日照時間、気温のグラフ(気象庁ウェブサイトの図をもとに作成)】

豊岡市では、冬の降水量が多くなっています。これは、日本海側気候の特徴で、冬に雪や雨が降る影響です。同じ日本海側の鳥取市でも、豊岡市と同様の傾向が見られます。神戸市と潮岬は、冬に降水量が少なく、夏に多いという特徴があります。特に潮岬の夏の降水量は、瀬戸内海に面した神戸市よりも多く、台風の上陸が影響していると思われます。

なぜ、日本海側にはたくさんの雪が降るのでしょうか。その理由は、大陸からやってくる北西の季節風と日本海、そして日本列島の地形に関係があります。冬になると大陸の冷たくて乾燥した空気の塊（シベリア気団）が発達し、日本海の上空を通過して日本列島にやってきます。日本海の浅いところには、



【図2 日本海が生み出す気象(山陰海岸ジオパークウェブサイトより)】

対馬暖流という暖かい海流が流れており、大陸からやってきた冷たくて乾燥した空気は、日本海の上空を通過するときに、たくさんの熱と水蒸気をもらいます。水蒸気をたくさん含んだ空気は雲を作り、日本列島の山地にぶつくと上昇気流が発生して雪雲が発達し、日本海側に雪を降らせます(図2)。

ところが、同じ日本海側でも東北や北陸と山陰とでは雪の降り方はずいぶん違います。東北や北陸は、山陰よりも緯度が高く気温が低いことや、季節風が日本海の上空を通過する距離が長いことなどから、世界有数の豪雪地帯になっています。山陰海岸ジオパークエリア(鳥取県東部、兵庫県・京都府の日本海側)は緯度が低ですが、比較的多くの雪が降り、豪雪地帯に指定されています。しかし、同じ山陰でも島根県や山口県の日本海側は、山陰海岸ジオパークエリアに比べて冬の降水量は少ないです。これは、朝鮮半島があるために日本海の幅が狭く、季節風(裏面へ)

に十分な熱と水蒸気が供給されないからと考えられます。このように、地形や海流、緯度などさまざまな環境が、その地域の気候に影響を与えているのです。

かんてんぼうき

観天望気

天気や気候の変化は、それぞれの地域の地形や周囲の環境などによって特徴があります。そこで、各地には古くからその地域の生活体験や言い伝えなどを元にした天気や気候の予測の方法が伝わっています。それを「^{かんてんぼうき}観天望気」といいます。全国的に有名な観天望気は、「太陽や月がカサをかぶると、翌日は雨が降る。」や、「山頂や尾根をかさ雲が覆ってくるとやがて悪天候になる。」などがあります。生物の様子などから天候を予測する観天望気もありますね。「ツバメが低く飛ぶと雨」とか、「カエルが鳴くと雨」などは聞いたことがあるかもしれません。鳥取県岩美町にもいくつかの観天望気が伝わっています。

<岩美町の観天望気の例>

- ・9月から10月にかけて東の風（コチ）が吹くと、気温が下がり寒くなる。
- ・冬季、南風が吹いた翌日以降は西風になり雪も降る。
- ・秋には、雨が降ってくれば必ず風が強まり、^{ふうろう}風浪も大きくなる。
- ・沿岸付近が積雪になる降雪の時は、沿岸の波は大体小さい。
- ・かもめが空高く飛ぶようなときは、嵐が近づいており海上は^{しげ}時化てくる。
- ・水平線一面に雲があるときは、北東の風が吹く。
- ・雲の色が次第に黒くなるのは、今後、風が強くなり波高が大きくなる。
- ・^{だいせん}大山（岩美から見た西方の山々）がくっきりと見えてくれば、翌日からは天候が下りやすい。
- ・南西の空に雲が厚くなると雨が降る。
- ・水平線の雲が黒くなったときは、雷雨になりやすい。 （「新編 岩美町誌 上巻」より抜粋）

地域の特徴として、海況に関する観天望気もあります。漁をするための目安にしていたのかもしれませんがね。現在のように、気象衛星や最先端の観測機器を利用した天気予報ができなかった時代には、長年の生活体験や言い伝えを元に天気の変化を判断していました。当時の人々は、現在の私たちよりも自然を注意深く観察し、わずかな変化にも敏感だったのかもしれませんが。観天望気が現在も伝わっているということは、山陰海岸で生活する私たちは、先人たちの知恵と工夫を受け継ぎ、利用しながら暮らしているのですね。

[主な参考文献・引用文献]

- ・岩美町誌執筆編集委員会（2006）『新編 岩美町誌 上巻』岩美町、55-56。
- ・気象庁ホームページ 知識・解説、日本の気候、近畿地方の平年の天候 https://www.data.jma.go.jp/cpd/i_climate/kinki/main.html
- ・山陰海岸ジオパークホームページ 教育素材集、日本海が生み出す気象・気候と恩恵 <https://sanin-geo.jp/play/resources-categories/photo-education>

<普及講座について>

3月16日の「漂着貝の標本作り」で、今年度の普及講座がすべて終了しました。1年間で763名の皆様にご参加いただきました。ご参加いただきました皆様、ほんとうにありがとうございました。

令和7年度は、ゴールデンウィークから講座が始まります。これまで、参加申込みが必要な講座は、「ヨット体験クルージング」と「磯の観察会」以外電話申込みでしたが、令和7年度はすべてWEB申込みとなります。参加申込につきましてご不明な点がございましたら、海と大地の自然館までお問い合わせください。

令和7年度もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。（安藤）

☆GWのイベント情報☆

4月26日(土)・5月3日(土・祝) 「DO! 折り紙&ぬりえ」 ①10:00~12:00 ②13:00~15:00 申込不要

4月27日(日)・5月4日(日・祝) 「太陽の観察をしよう!」 ①10:00~12:00 ②13:00~15:00 申込不要

4月29日(火・祝)・5月5日(月・祝) 「磯の生き物タッチング」 ①10:00~12:00 ②13:00~15:00 申込不要

※それぞれ、午前と午後の1日2回開催します。